

プログラム ※[第3通信] 時から変更

1 日 6 月 1 日 [土]	会場	研究 1 101 教室	研究 2 102 教室	研究 3 103 教室	研究 4 201 教室
	座長	奥野邦利	村山匡一郎	宮本明子	小出正志
13:00 13:30	研究 1a: 平野知映 3校の高等学校によるプロジェクションマッピングの制作から展示まで—ICT教育とアートの関係性について	研究 2a: モルナール・レヴェンテ 悪魔が踊るとき —タル・ペーラ監督の「サタンタンゴ」における運動と空間	研究 3a: 黄也 成瀬巳喜男作品における「働く母」 —〈田中絹代三部作〉をめぐって	研究 4a: 太田曜 フォトセノグラフで撮影されて作られたエミール・レイノーのフォトパンチュールアニメ	
		14:00 開会の辞 (基盤教育棟2号館222教室) 14:30 シンポジウム 「ポスト・ノスタルジー: 映像メディアと記憶の問題」 基調講演: 片瀬須直 (アニメーション映画監督、日本大学芸術学部特任教授) 発表: 石田美紀 (新潟大学)、筒井武文 (映画監督、東京藝術大学) ディスカッション: 登壇者 片瀬須直、石田美紀、筒井武文/司会 大久保清朗 (山形大学)			
		18:00 懇親会 (厚生会館)			

2 日 6 月 2 日 [日]	座長	大久保清朗	村山匡一郎	宮本明子	桑原圭裕
	10:00 10:30	研究 1b: 矢澤利弘 ダリオ・アルジェント作品における殺人シーンの変化	研究 2b: 倉田麻里絵 映画に現れる作曲家ルグランの声	研究 3b: 具慧原 小津安二郎の「日本のなもの」をめぐる言説 —小津の同時代の批評を中心に	研究 4b: 田中素子 アニメーションにおける黙示録的表現 —『東京マグニチュード8.0』
	10:40 11:10	研究 1c: 早川由真 〈ニュー・ハリウッド〉期のリチャード・フライシャー—映画的身体と暴力の観点から	研究 2c: 茂木彩 浸透するイメージ —クレール・ドウニの親密さ	研究 3c: 前川道博 小津安二郎作品の形式システム再考 —『晩春』『麦秋』『東京物語』の構造分析	研究 4c: 西村智弘 1920年代の日本における抽象映画論者 —岩崎昶の「絶対映画」とその周辺
	11:20 11:50	研究 1d: 堅田諒 ジョン・カサヴェツスの方法 —「こわれぬ女」における俳優演出と時間性	研究 2d: 駒井政貴 ルイ・ドゥリュック『沈黙』における一人称表現とモダニズム	研究 3d: 韓承甫 小津映画における「笑顔」 —その消去と再生について	研究 4d: 小出正志 メディア芸術の定義とアニメーションの概念と現象

12:00 昼食  
13:30 第46回総会 (基盤教育棟2号館222教室)

	座長	矢澤利弘	木下千花	畑あゆみ	伊津野知多
	15:00 15:30	研究 1e: 高崎郁子 『強迫』にみる、監禁された男性表象—エドワード・ドミトリクスの赤狩りとその反映についての考察	研究 2e: 李瑛恩 朝鮮と日本の女性主演映画からみる女優史の比較的考察 —『迷夢』(1936)と『浪華悲歌』(1938)を中心として	研究 3e: 阿部久瑠美 日本映画におけるジャンル研究の可能性 —東映プログラム・ピクチャーを中心に	研究 4e: 竹林紀雄 TVディレクターの著作権意識についての一考察 —テレビ番組を制作したのは誰なのか
	15:40 16:10	研究 1f: 吉村いづみ ジョン・フルと戦時貯蓄証書—英国における第一次世界大戦時の国内向け宣伝映画	研究 2f: 久保豊 息子「監督としての記憶」—木下恵介のホームムービーを分析する	研究 3f: 角尾宣信 敗戦後日本の経済体制と天皇制の風刺としての「社長シリーズ」—「三等車役」(1952年)と「社長太平記」(1959年)を中心に	研究 4f: 飯岡詩朗 「ニュー・メディア」を騙るTVドラマ/映画 —2つの「マーティ」(1953/1955)をめぐって
	16:20 16:50	研究 1g: 河慧柱 『ロード・オブ・ザ・リング』における人種差別とポストコロニアリズム	研究 2g: 草原真知子 写し絵の成立過程に関する検証と考察	研究 3g: 田中晋平 小川プロダクション『どっこい! 人間筋 寿・自由労働者の街』の上映運動について	研究 4g: 百束朋浩 和製英語「MA」という言葉の成立過程

研究 5 202 教室	研究 6 203 教室	研究 7 / 作品 1 204 教室	作品 2 205 教室	作品 3 207 教室
渡邊大輔	古賀太	松村泰三		
研究 5a: 鳥山正晴 インタラクティブ・ドラマの可能性 —Netflix「ブラック・ミラー パンダースナッチ」を考える	研究 6a: 赤井敏夫 インド映画撮影所の現在	研究 7a: 野地朱真 ステージパフォーマンスのためのプロジェクション映像制作		

渡邊大輔	土田環	加藤到		
研究 5b: 北市記子 コミュニケーション・メディアとしての『ヴィトリウス』	研究 6b: 平野大 映画「プレステージ」に見るカナリアの象徴的意味と役割	作品 1a: 栗原康行 地域及び地域企業との協働による環境問題啓発映像制作について—実用作品としての映像コンテンツ制作と教育効果について	アナログメディア研究会 東北芸術工科大学図書館所蔵の1970年代以降に制作された日本の短編実験映画を16ミリフィルムで上映。 『ハリオグラフィ〜』(山崎博)ほか	発表作品のループ上映
研究 5c: 水野勝仁 インタラクティブにおける映像の物質的質感 —ISEEY MIYAKE『DOUGH DOUGH』のウェブサイトが示す「マテリアル」	研究 6c: 安部裕 『大地の芸術祭』における廃校を利用した生中継番組の配信 —IP生中継システムの学生運用実験	作品 1b: 柴岡信一郎 『2016・2020年東京五輪を歩く』 —変貌する街並みと魂の叫び	座長: 太田曜	
研究 5d: 原田健一 木村伊兵衛とプロパガンダ	研究 6d: 宮下十有・加藤良将 映像作りで拓く映像リテラシーのこれから —児童を対象とした映像制作ワークショップ	作品 1c: 小林和彦 『FN-02』	作品 2a: 水由章 『Perception』 —SCOOPIC 16Mでの多露露光	

木原圭翔	小川直人	水由章	太田曜	
研究 5e: 萱間隆 トーカー・移行期における劇映画のアフレコ言説	研究 6e: 藤田修平 哀の共同体と映画	作品 1d: 杉田このみ 『今日、この島に私がいます』 —愛媛の羅島・陸月島を舞台にした映像プロジェクト	作品 2b: 大橋勝 プリコラージュとしての映像制作「光の書話学のために」	
研究 5f: 織田理史 現代映像メディアにおける「ノスタルジー」の特異性について—ドクルーズの反省哲學の今日的妥当性をめぐって	研究 6f: 坂本憲信 デザイン基礎教育における静止画および動画の複合的表現による授業実践の試み	作品 1e: 芦谷耕平 『VENTO AUREO』	作品 2c: 伊藤隆介 『曇 V op.53b』 —映画フィルムのフレーム、ビデオ画面分割によるスプリット・イメージ表現	
研究 5g: 住本賢一 デイヴィッド・ボールドウェル『フィクション映画の語り』における先行映画理論への批判と能動的観客像の意義	研究 6g: 山本努武 景観情報の空間的表現に関する研究		作品 2d: 川口肇 『MIRROR / RORRIM』 —デジタル/フィルム撮影・上映プロセスの混交による表現	